

研究のまとめ

成果

◆児童の体力・運動能力が向上した。「アクティブプランto2020目標値」に対する達成状況

男											女												
学年	名前	種目								合計点	達成種目数	学年	名前	種目								合計点	達成種目数
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ					kg	回	cm	回	回	秒	cm	m		
1	目標値	10	12	26	28	21	11.4	116	9	33	1	目標値	9	11	29	27	18	11.6	109	6	33		
	30六小	9.7	12.6	30.6	25.8	22.6	11.2	111.1	7.71	4		30六小	9.9	11.5	33.8	25	18.7	12.1	104.6	5.48	4		
2	目標値	11	15	28	33	31	10.5	127	12	40	2	目標値	11	14	31	31	25	10.8	121	8	41		
	30六小	11.6	15.7	34.8	31.1	33.4	10.0	131.1	11.2	6		30六小	11.5	15.6	37.1	29.5	30.7	10.4	128.8	7.12	6		
3	目標値	13	17	30	36	40	9.9	137	16	46	3	目標値	12	16	34	35	31	10.2	130	10	47		
	30六小	14.4	17.9	36.9	36.3	43.7	10.0	141.8	15.3	6		30六小	12.3	18.1	39.4	34.1	35.3	10.4	133.5	9.58	5		
4	目標値	15	19	32	41	50	9.5	147	20	51	4	目標値	14	18	36	39	39	9.8	139	13	53		
	30六小	15	20.7	39.2	40.1	54.3	9.5	151.5	18.7	6		30六小	14.7	19.7	45.6	36.4	44.1	9.9	144.2	10.9	5		
5	目標値	17	21	34	44	58	9.1	156	24	57	5	目標値	17	20	39	42	47	9.4	150	15	59		
	30六小	18.3	22.7	43.6	42.5	65.1	9.0	156.1	23.5	6		30六小	16.8	21.5	44.1	41.4	46.2	9.5	146.8	13.1	61.9		
6	目標値	20	23	37	47	66	8.8	167	28	63	6	目標値	20	21	42	45	53	9.0	159	17	64		
	30六小	20.4	26.1	52	50	69.3	8.5	173.3	28.7	8		30六小	19.7	24.1	56.2	48.6	56.2	8.7	170.1	17.4	67.2		
30達成学年数		5	6	6	2	6	5	5	1	6	30達成学年数		4	6	6	1	5	2	4	1	5		

※太字はクリアしたもの

- ◎平成30年度は、全ての学年・男女の多くの種目で「アクティブプランto2020 体力テストにおける具体的目標値」を達成した。また、課題であった握力の数値は向上した。一方で反復横とびの数値が目標値を下回る学年が増加した。
- ◎特に6年生の結果に継続的な健康教育の成果が明確に表れた。



◆年間指導計画を作成することで、健康教育の取り組みを継続できた。

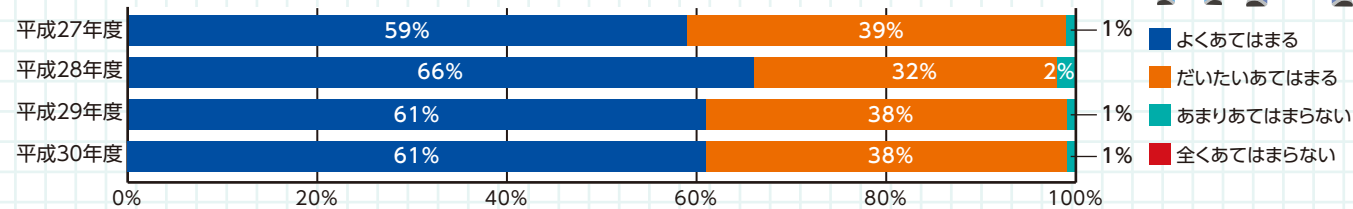
ゲストティーチャーを活用した年間指導計画(H.28~30の実践例)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	11月(全校)	12月	1月	2月	3月	
1年	グリーンピースのさやむき	まめつかみはしの持ち方	スポーツテスト保護者協力	給食室探検			JACOT【コーディネーショントレーニング】 花王 手洗い授業	なわとび 小助 「なわとび」		野菜と仲良くなろう			
2年	野菜を育てよう そらまめのさやむき	さつまいもをとろう	スポーツテスト保護者協力	とうもろこしの皮むき		つぼみ菜パーティー	JACOT【コーディネーショントレーニング】		大根ほり				
3年				枝豆のさやむき	しょう油出前授業	すがたを 変える大豆	JACOT【コーディネーショントレーニング】 農家見学		大根ほり				
4年					ヤグルトスワローズ「ベースボール型」		味噌汁作り						
5年			お米作り		東芝ラグビー	パラリンピアンポッチャ	川口コーチ 高跳び幅跳び		バルシステム 脱穀、もみすり			オリンピック「バスケットボール」	
6年					病気の予防「地域の保健活動」ゲストティーチャー		川口コーチ「ハードル走」		エコフッキング	薬物キャラバン			

◎教職員全体で取り組みを共有、毎年見直すことで、継続的に成果を蓄積することができた。

◆保護者の健康教育への意識が高まり、協力体制が整った。

◎健康教育の取り組みが地域・保護者にも根付き、学校の特徴として認識されるようになった。
「学校は、子供たちの健康に対する指導(けがや病気の予防、持久走・なわとび等の体力づくり)を適切に行っていますか。」



◎毎年、教育課程を見直し、体力向上のための取り組みを保護者・地域と協力して行ったり、保護者へ健康教育に関する啓発を行ったりしたことで、保護者の健康教育に関する意識が高まった。また、学校の取り組みが保護者に着実に浸透し、協力体制が整った。

◎「多摩川マラソン大会」や「なわとび週間」に向けて、放課後や土日にも親子で一緒に練習をしたり、体を動かしたりする姿が見られるようになった。

地域・家庭と連携した取り組み

- 運動会「みんなでおどろろ」
保護者には自分の子供だけでなく、多くの児童と触れ合うことができ、地域の方には、児童の実態を見てもらう大切な機会となっている。
- 親子ラジオ体操
夏休みの5日間、狛江市ラジオ体操会連盟会長の協力をいただき、校庭でラジオ体操を実施、カードを配布し、参加回数がかかるようにした。児童だけでなく保護者や地域の方々も参加している。



- 多摩川マラソン大会への協力
学校近くにある多摩川の土手やグラウンドを利用してマラソン大会を行っている。運営上十分な人数を確保するために保護者に協力を求めた。現在は、おやじの会の保護者が率先してグラウンド整備やライン引き、マラソン中の先導や交通整理等を行っている。



- 保護者による体力テストの補助
保護者の支援をいただき、計測を実施している。保護者が体力テストの内容や児童の実態を把握するとともに、家庭でも練習したり、運動したりするきっかけづくりとなっている。



- 地域のチーム・スポーツクラブ主体のスポーツイベントの実施
地域のチーム・スポーツクラブが主体となって希望児童を対象にイベントを実施している。教職員・地域・保護者が一体となって行うイベントではあるが、回を重ねるごとに学校側からではなく、地域が率先して取り組む活動となってきている。

課題

- 児童の体力・運動能力の向上について、数値の向上だけを追求することなく、児童が主体的、継続的に運動に取り組む環境整備をすること。
- 運動への意欲が低い高学年児童、特に女子児童へのアプローチを工夫すること。